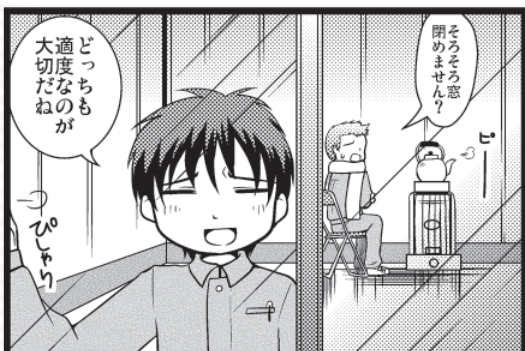
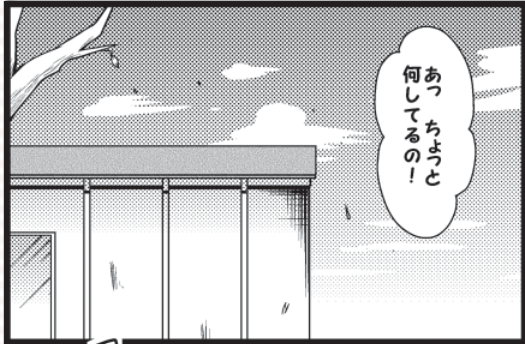


よしたに ともき  
作：吉谷 友希

**冬場は作業場の暖房にも要注意**



**「『見える』安全活動コンクール」がスタート**  
——事例は「あんぜんプロジェクト」HPで公開

厚生労働省

厚生労働省は昨年11月15日、「『見える』安全活動コンクール」の事例募集を開始した。

同コンクールは、メンタルヘルス対策を含む職場の安全活動の中で、危険認識や作業上の注意喚起をわかりやすく周知でき、また、一般の労働者も参加しやすい活動である安全活動の「見える」化について、その取組み事例を募集、公開しようというもの。また、事例については、広く国民から投票を募り、優良事例を決定。これにより事業場の安全活動の「見える」化への取組みを活性化することを目的としている。

募集期間は昨年11月15日から今年1月13日までで、応募した取組み事例は同省の「あんぜんプロジェクト」ホームページ上で公開される。優良事例の投票は1月23日から2月24日までの間に行われ、3月末に優良事例が発表される。

この「あんぜんプロジェクト」とは、安全活動に熱心に取り組んでいる企業が、国民や取引先に注目されるための運動。同省が昨年4月に取りまとめた“安全から元気を起こす戦略”の中の1つである「安全活動に意欲のある企業が評価される仕組みづくり」の具体的手法として示されたもの。プロジェクトに賛同する企業が、自社の安全活動や労働災害発生状況を公表し、これを同省のホームページにおいても“プロジェクトメンバー”として掲載。この取組みにより、安全向上に取り組んでいる企業が明らかとなり、企業価値（安全ブランド）の向上につながることが期待されている。

取組み事例の応募方法は、同省の「あんぜんプロジェクト」ホームページ上の「『見える』安全活動コンクール」特設ページから、申請書をダウンロードし、電子メールに添付して応募可能。

**除染作業従事者の放射線障害を防止へ**  
——新省令を制定・施行

厚生労働省

厚生労働省は昨年11月28日、「除染作業等に従事する労働者の放射線障害防止に関する専門家検討会報告書」を公表。これを受けて同省は、1月1日に除染等電離放射線

障害防止規則（仮称）を施行することとしている。

現行の電離則は、原子力施設などの施設内に適用。今回の東電福島第一原発の事故に端を発した除染作業のように、

施設外での作業は想定外だった。

このため、今後本格化する除染作業を前に同省は、作業に従事する労働者の放射線障害防止対策を整備したもの。

## 各センターが働く人の役に立つ活発な取組みを発表

平成23年度 産業保健調査研究発表会・独立行政法人 労働者健康福祉機構

全国の産業保健推進センターが実施する調査・研究の発表の場となる、平成23年度（第16回）産業保健調査研究発表会（主催：独立行政法人労働者健康福祉機構）が平成23年10月20、21日の両日、神奈川県・川崎市のソリッドスクエアホールで開催された。会場には各推進センターの所長や関係者をはじめ、一般公開による参加者らが参集し、研究成果を熱心に聞き入るとともに、活発な質疑応答が行われた。

研究発表会開催の冒頭、名川弘一理事長が挨拶に立ち、「働く人が

安心して働ける職場づくりのための調査・研究も充実してきた。発表会で報告された成果が広く社会に還元され、生かされるように活発な発表会になることを期待しています」と述べ、2日間の発表会が開催した。

初日は、「職場のメンタルヘルス」、「メンタルヘルスの職場復帰」に関する調査・研究が7題発表された。また、「産業メンタルヘルスの法知識～法律からみたメンタルヘルス対策について～」と題して、近畿大学法学部の三柴丈典准教授による講演も行われた。三柴准教授は裁判例



を引きながら、メンタルヘルス不調者に対する事業者や産業医など産業保健スタッフとして取るべき措置や休職、復職に際しての留意事項などについて解説した。

2日目は、「メンタルヘルス支援」、「産業保健活動支援」、「健康管理」、「作業環境管理・作業管理」に関する調査・研究が11題発表された。

### 産業保健

## この一冊

### ここが知りたい 職場のメンタルヘルスケア 精神医学の知識&精神医療との連携法

編者：日本産業精神保健学会  
発行：南山堂 定価：4,725円（税込み）

佐々木メンタルクリニック 佐々木高伸



本書は、職場のメンタルヘルス対策に携わるさまざまな職種のスタッフのために、その実践の現場で役立つ情報・知識を幅広くかつ要領よく提供すべく、日本産業精神保健学会の産業医部会が中心となってまとめられたものです。したがって、その目的に沿った特筆すべき特長が2つあります。

第一は、タイトルに「ここが知りたい」とあるように、知りたい項目を選択的に読めばその領域のポイントが過不足なく把握できるということです。実は、発売当初から本書は当クリニックの本棚にあり、私自身「これはどうだったかな」という時にその項目を開いて読む、という使い方をしていました。さまざまな職種の方が忙しい日常業務の中で今すぐ「ここが知りたい」という要望をかなえてくれる構成になっている点は、現場を知っている

からこそその発想で、本書の大きな強みです。

第二は、執筆陣が臨床に軸足を置いた実務経験豊富な方々ばかりであるということです。当然のことながら、職場のメンタルヘルス不調事例の背景には、個人の事情、会社の論理、社会の情勢、医学の趨勢といった要素が複雑に絡み合っています。したがって、現場で携わる者は複眼的思考を求められ、絡み合った糸を柔軟に丁寧に解きほぐしていく作業が必要となります。本書は、臨床家ならではの経験をもとに、そうした作業に必要な多角的視点からの知恵や技を豊富に盛り込み、実践的なポイントを教えてくれます。

産業精神保健の現場の本棚に是非常備してほしい一冊です。